非住宅木造対応を本格化

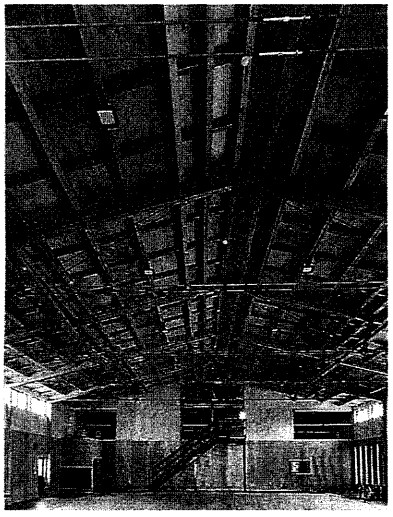
イトコー

事務所兼作業場をATAハイブリッド構法で

イトコー（愛知県豊川市、伊藤博昭社長）は、非住宅木造への対応を本格化する。顧客ニーズに対応する複数構法の提案が可能で、さきごろ住設販売・施工企業から受注した、9月末竣工を予定する豊川市御油町の物件は事務所兼作業場だ。ATA（富山県滑川市、青谷敏男社長）のATAハイブリッド構法の採用で、18㍍スパンを実現している。

同社はモデルハウスも展開する木造住宅、不動産、リノベーション、鉄骨造倉庫ほかを手掛けており、さらなる事業多角化を目的に非住宅木造への対応を本格化する。非住宅木造は、社内部門のイトコーコーポレーションが担う。

事務所兼作業場は木造2階建てで、延べ床面積637平方㍍。1階部分は事務所と作業場で、2階（一部）は倉庫となる。木材は、Rウッド集成材ほか98立方㍍を使用。一般流通材（120×450×6000㍉以内）で大空間（12～22㍍）を実現する、ATAハイブリッド構法のハイブリッドトラスTMタイプを採用した。



18㍍スパンの建屋内部

このほか、独自提案として屋根部分に日本遮熱（栃木県足利市、野口修平社長）の遮熱シートを敷くことで建屋内の快適性にも配慮。なお、プレカットは材惣木材（名古屋市、鈴木龍一郎社長）が担った。

伊藤社長は「今回は、施主企業の将来の人材獲得なども目的に木造化となった。今後はRC造比でのコストメリット、他社とともに研究している木の持つ快適性、従業員の満足度向上などをアピールして地域需要を開拓していく。遮熱シートの採用は、施工時でも効果が出ている。9月19日には、当該物件の完成見学会を実施する」と話している。